



Good Luck...いや、失礼。 Good Skillでした。

Date: May 25th, 2011 | BY Denise Montgomery

大学を卒業して2つ目の仕事は、控えめに言っても、まるでアクション・アドベンチャー・コメディのようでした。信じられませんか？一軒一軒訪問して政治運動のための資金を集めてみればわかると思います。

サンディエゴリーダーというニュースサイトに掲載されていた3行の広告が目にとまりました：「週350ドル稼げます。漸進的な目的のために資金を集めています！888-RUK-RAZY」このようなシンプルで理想主義的な、夢のようなチャンスを拒否できようはずがありませんでした。当時、不況の真っ只中に大学を卒業し、絶望の末引き受けた小売業の仕事にうんざりしていたのです。それでそこに電話したところ、「ぜひ来てください」と言われ、私は大喜びでした。

以下の話はその職歴18ヶ月の記録です。

面接はそもそも行われませんでした。私のように若く、目を輝かせた希望者は毎日現れました。私たちは1時間のオリエンテーションを受け、その後、夜には活発な活動員が割り当てられ、シャドーイングをさせられました。それは、完全に「沖に放り出して泳げるかどうか試す」という採用アプローチでした。

オリエンテーションでは、熟練者たちがお互いに「おしゃべり」を練習し、簡単な「お宅」と難しい「お宅」の両方をロールプレイし、お願いのテクニックを洗練させるのを畏敬の念を持って見ていました。各活動員の目標募金額は、現金または小切手で毎晩120ドル

でした。その結果、週800ドルのノルマが課せられ、雇用を維持するためには3週間のうち2週間はそのノルマの達成をしなければなりません。ある週に800ドルを達成できなかった活動員は試用期間に戻され、次の週、そしてその次の週にもノルマを死守しなければなりません。

私の最初の夜は、17:00から19:00までメンターの活動員と一緒に「現場に出ました」。彼女は悪戦苦闘していました。2時間が過ぎた時点で、彼女はたった36ドルしか募ることができませんでした。

私は彼女から訪問先として8軒の家に割り当てられ、いよいよ彼女の手を離れることになりました。彼女は私の背中を叩き、「Good skill!」と言いました。変な言い回しだなあと思いましたが、あまり深く考えられないほどその時の私は圧倒されていました。

その夜私は成功し、わずか1時間で80ドルを募って戻ってきました。3週間も経たないうちに、私はメンター活動員となり、新米活動員にやり方を教えるようになりました。就職して2ヶ月後、私はフィールド・マネジャーとなり、全ての活動員を担当しました。その仕事のためのリーダーシップ・トレーニングはありませんでした。私がこの地位に到達できたのは、粘り強さと年功序列、そして独自の即時資金調達スタイルを見つけるのに苦労している新人をサポートする能力があったからでした。

最初の夜に聞いたフレーズは何度も聞くことになりました。「Good Luck」という言葉は、たとえ誰かにとって最後の夜だったとしても、使うことは許されませんでした。指導員は、「Good Luck」には前提として運が必要だからだと教えてくれました。「Good Luck」とは、世の中で起こることを自分でコントロールできないことを意味します。「Good Luck」は、あなたの未来があなたの手ではなく、他者の手の中にあることを意味します。ですから、私たちはいつも「Good Skill」と言っていました。

あの仕事から何十年もの間、私はこのフレーズを何度も繰り返してきました。博士論文や修士論文の発表を控えている友人に「Good Skill」と言いました。営業に出かける上司にも言ったことがあります。就職の面接に向かう友人にも言ったことがあります。

リーダーシップ・トレーニングとゴードン・モデルについて私が気に入っていることの1つは、人間関係のコミュニケーションに関して、個人の力とコントロールの感覚と全く同じ感覚を育むことです。良好な人間関係は運の問題ではありません。それらはスキルの問題です。運は無作為ですが、スキルは学び、練習し、洗練することができます。

今度誰かが大きな課題に立ち向かっていて、その結果が自分でコントロールできる範囲にある人を励まそうとするときには、「Good Luck」ではなく「Good Skill」と言ってみてく

ださい。どういうわけか、ほとんどの場合、私たちは自分の運命の舵は自分自身が握っているということを思い出させてもらう方が、ずっと安心できるのです。